聴

17画

おん チョウ
くん きく

なりたち 旧字体は聽。直の変化した壷と心と耳と壬との会意形声字。心をまっすぐにして〝きく〟という意味の字。〝心をこめてきく〟こと。また、〝注意してしっかりとききとる〟こと。

いみとじゅくご
▼心をこめて聞く。しっかりと聞く。
聴聞…❶人の話を注意して聞くこと。❷仏教で、説教を聞くこと。❸行政機関が事業などの問題について、関係者の意見を聞くこと。例聴聞会
傾聴…耳を傾けて（注意を集中して）熱心に聞くこと。用例傾聴に値する話。
聴衆…音楽や講演を聞く人々。
聴診…医者が診断のために、患者の心臓や呼吸器官の音を聞くこと。例聴診器
聴取…聞き取ること。例事情聴取
聴講…講義を聞くこと。例聴講生
静聴…静かに聞くこと。用例御静聴ありがとうございました。

聖

【6年】

13画

おん セイ
くん

なりたち 旧字体は聖。人が地上に立つ形を表した壬と口と耳との会意形声字。耳さとく口の弁も立つ人という意味の字で、〝知恵や行いがすぐれた人〟をいう。また、〝ある面で非常に優れた人〟の称。

いみとじゅくご
▼知恵や行いが優れた人。
聖人…知恵や行いが優れ、人の手本になる人。特に儒教やキリスト教で、高徳の人。聖者。
聖賢…聖人と賢人。また、徳が優れ賢い人。
▼ある方面で非常に優れた人。
詩聖…非常に優れた詩をつくる人。
楽聖…非常に優れた音楽をつくる人。例楽聖ベートーベン
▼きよらか。
聖火…神にささげる清らかな火。

よみかた 聖歌・聖書・聖地・聖典・聖堂・聖母・聖夜・画聖・賢聖・神聖

自

【2年】

6画

おん ジ・シ
くん みずから

なりたち 人の〝はな〟の形をかたどった象形字である。〝はな（鼻）〟の本字。自分のことをいう場合、鼻を指さすので、〝わたくし〟の意味に使われる。また、〝おのずから〟の意味に使われる。

いみとじゅくご
▼自分。わたくし。
自習…自分で学習すること。
自衛…自分で自分を守ること。
自戒…自分を戒めること。
自活…自分の力で生活し、他人の助けを借りないこと。
自己…自分。例自己流（世間一般と違った自分だけのやり方。）
自賛…自分で自分をほめること。例自画自賛
▼おのずから。ひとりでに。
自動…自分の力で動くこと。例自動車
自然…おのずから、そうあるもの。人の手や意識が加わっていないもの。用例自然な態度。
▼思いのまま。
自由…束縛が無く、思いのまま。用例言論の自由。

鼻

【3年】

14画

おん ビ
くん はな

なりたち・〝はな〟の本字である自が〝私〟の意味に使われるようになったため、自に音を表す昆（び）を加えて作ったもの。形声字である。

いみとじゅくご
▼はな。
鼻孔…鼻の穴。
鼻音…口を閉じて鼻に息を通して出す音。
鼻息…❶鼻でする息。❷人のきげん。用例鼻息をうかがう。❸意気ごみ。用例鼻息があらい。
▼はじめ。
鼻祖…その事をはじめた人。元祖。（昔、中国では動物は鼻からできたと考えられていたため。）

よみかた 鼻歌・鼻緒・鼻紙・鼻薬・鼻毛・鼻声・鼻筋・鼻血・小鼻・耳鼻科・隆鼻

さんこう 鼻にかける＝自慢をする。鼻につく＝いつものことであきあきする。木で鼻をくくる＝愛想のない様子。鼻を明かす＝相手を出しぬいて、あっと言わせる。